

行動問題

ABA（応用行動分析）



R8.2.12

AELL

右のQRコードから
左のページの表示を
お願いします。



合同会社サングスシェア
代表社員・相談支援専門員 田中 さとる



① 強度行動障がいとは

行動の機能 氷山モデル 行動の原理 要因の分析・記録

② 行動問題が起きた際の対処

行動問題への対応サイクル 環境の調整（防ぐ①）

③ 行動問題を防ぐ方策（防ぐ②－１ ②－２）

バイパスモデル 望ましい行動５つのステップ

① 強度行動障がいとは



いわゆる疾病ではなく状態のこと

強度行動障がいとは

精神科的な診断として定義される群とは異なり、直接的他害（噛み付き、頭突き等）や、間接的他害（睡眠の乱れ、同一性の保持等）、自傷行為等が通常考えられない頻度と形式で出現し、その養育環境では著しい処遇の困難な者であり、行動的に定義される群
家庭にあつて通常の育て方をし、かなりの養育努力があつても著しい処遇困難が持続している状態
(行動障害児者研究会 1989年)

「強度行動障害」とは自分の体を叩いたり食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど本人の健康を損ねる行動、他人を叩いたり物を壊す、大泣きが何時間も続くなど周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のこと。
(R5年 こども家庭庁 支援局障害児支援課)

強度行動障がいとは

【強度行動障がいとは】

障害支援区分認定調査の認定

調査項目11 項目に医師意見書

のてんかんの項目を加えた12

項目が行動関連項目とされ、各

項目に0～2 点の重みづけを行

い、24 点満点としている。

なお、**24点中10点以上**の者を強度行動障害に係る支援の対象としている。

図表 25 行動関連項目

行動関連項目		行動関連項目の選択肢ごとの得点		
		0 点	1 点	2 点
3-3	コミュニケーション	1 「日常生活に支障がない」	2 「特定の者であればコミュニケーションできる」 3 「会話以外の方法でコミュニケーションできる」	4 「独自の方法でコミュニケーションできる」 5 「コミュニケーションできない」のいずれか
3-4	説明の理解	1 「理解できる」	2 「理解できない」	3 「理解できているか判断できない」
4-7	大声・奇声を出す	1 「支援が不要」 2 「希に支援が必要」 3 「月に1回以上の支援が必要」のいずれか	4 「週に1回以上の支援が必要」	5 「ほぼ毎日（週5日以上）の支援が必要」
4-16	異食行動	4-7 と同様		
4-19	多動・行動停止			
4-20	不安定な行動			
4-21	自らを傷つける行為			
4-22	他人を傷つける行為			
4-23	不適切な行為			
4-24	突発的な行動			
4-25	過食・反すう			
—	てんかん			

行動障がいとは（児童）

※ 個別サポート加算（Ⅰ）

以下の(1)または(2)に該当すること。

(1) 食事、排せつ、入浴および移動のうち3つ以上の日常生活動作について全介助を必要とするもの。

(2) 指標判定の票の項目の点数の合計が13点以上であるもの。

サポート調査 調査項目	判定結果欄			時調査項目
	介助なし	一部介助	全介助	
① 食事				項目①
② 入浴				項目②
③ 排泄				項目③
④ 移動				項目④
	支援不要 (0点)	支援が必要な 場合がある (1点)	常に支援が必要 (2点)	時調査項目
⑤ コミュニケーション				項目⑩
⑥ 説明の理解				項目⑩
⑦ 大声・奇声を出す				項目⑤
⑧ 異食行動				項目⑥
⑨ 多動・行動停止				項目⑤
⑩ 不安定な行動				項目⑤
⑪ 自らを傷つける行為				項目⑦
⑫ 他人を傷つける行為				項目⑦
⑬ 不適切な行為				項目⑦
⑭ 突発的な行動				項目⑤
⑮ 過食・反すう等				項目⑥
⑯ てんかん				項目⑤
⑰ そううつ状態				項目⑧
⑱ 反復的行動				項目⑨
⑲ 対人面の不安緊張・集団への不適応				項目⑩
⑳ 読み書き				項目⑪

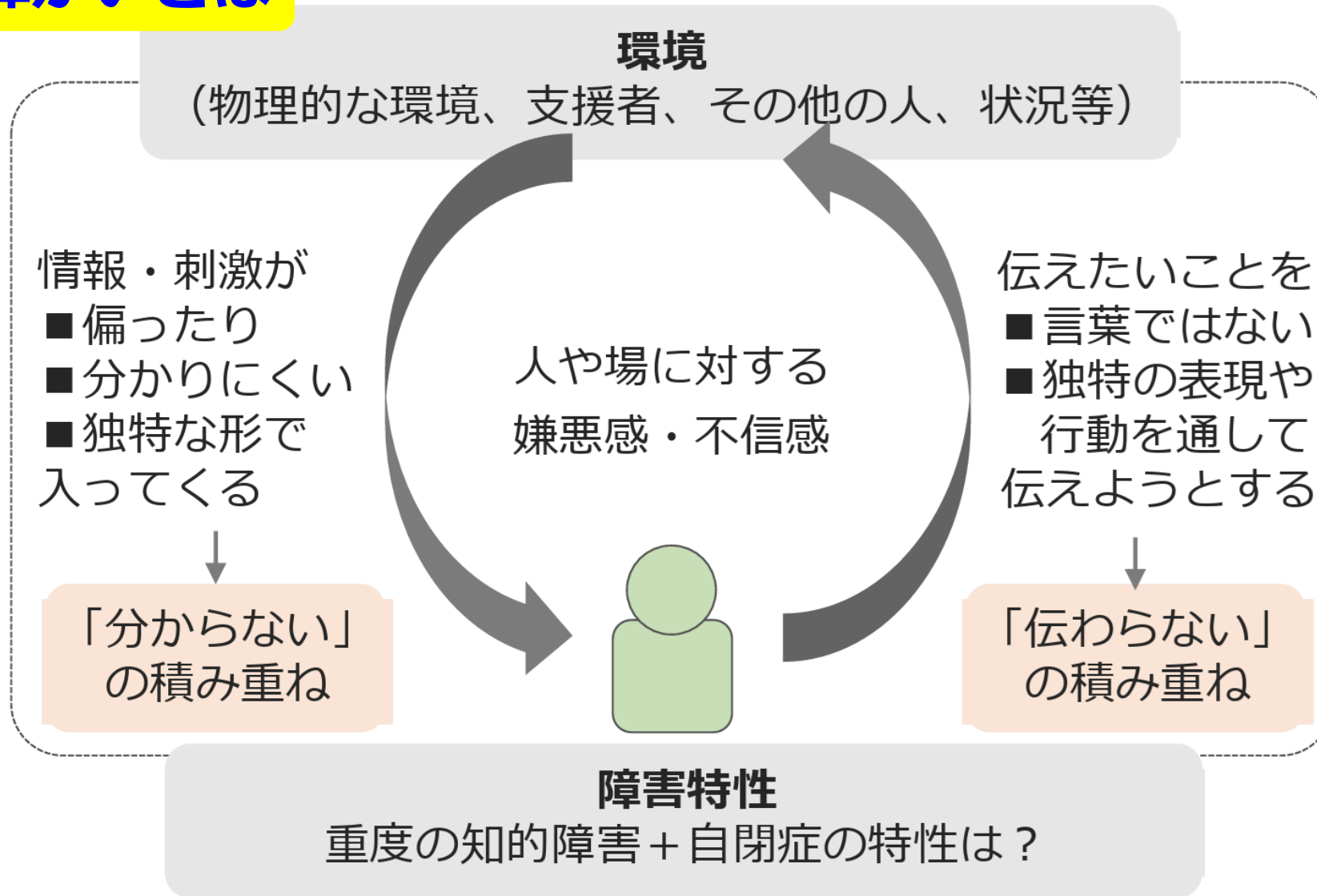
個別サポート加算（Ⅰ）の対象の判定				
<input type="radio"/>	①～④の3以上が「全介助」になる。			
<input type="radio"/>	⑤～⑳の✓の合計が13点以上になる。			

強度行動障がいとは

(強度行動障害基準表)

番号	行動障害の内容	1 点	3 点	5 点
1	ひどく自分の体を叩いたり傷つけたりする等の行為	週に 1 回以上	1 日に 1 回以上	1 日中
2	ひどく叩いたり蹴ったりする等の行為	月に 1 回以上	週に 1 回以上	1 日に 数回
3	激しいこだわり	週に 1 回以上	1 日に 1 回以上	1 日に 数回
4	激しい器物破損	月に 1 回以上	週に 1 回以上	1 日に 数回
5	睡眠障害	月に 1 回以上	週に 1 回以上	ほぼ毎日
6	食べられないものを口に入れたり、過食、反芻等の食事に関する行動	週に 1 回以上	ほぼ毎日	ほぼ毎日
7	排泄に関する強度の障害	月に 1 回以上	週に 1 回以上	ほぼ毎日
8	著しい多動	月に 1 回以上	週に 1 回以上	ほぼ毎日
9	通常と違う声をあげたり、大声を出す等の行動	ほぼ毎日	1 日中	絶えず
10	パニックへの対応が困難			困難
11	他人に恐怖感を与える程度の粗暴な行為があり対応が困難			困難
		点		

強度行動障がいとは



障害特性 × 環境要因 ⇒ 強度行動障害

行動問題の4つの機能

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

- ◆ 要求・要望・目的がある

⇒ 行動（含不適切）

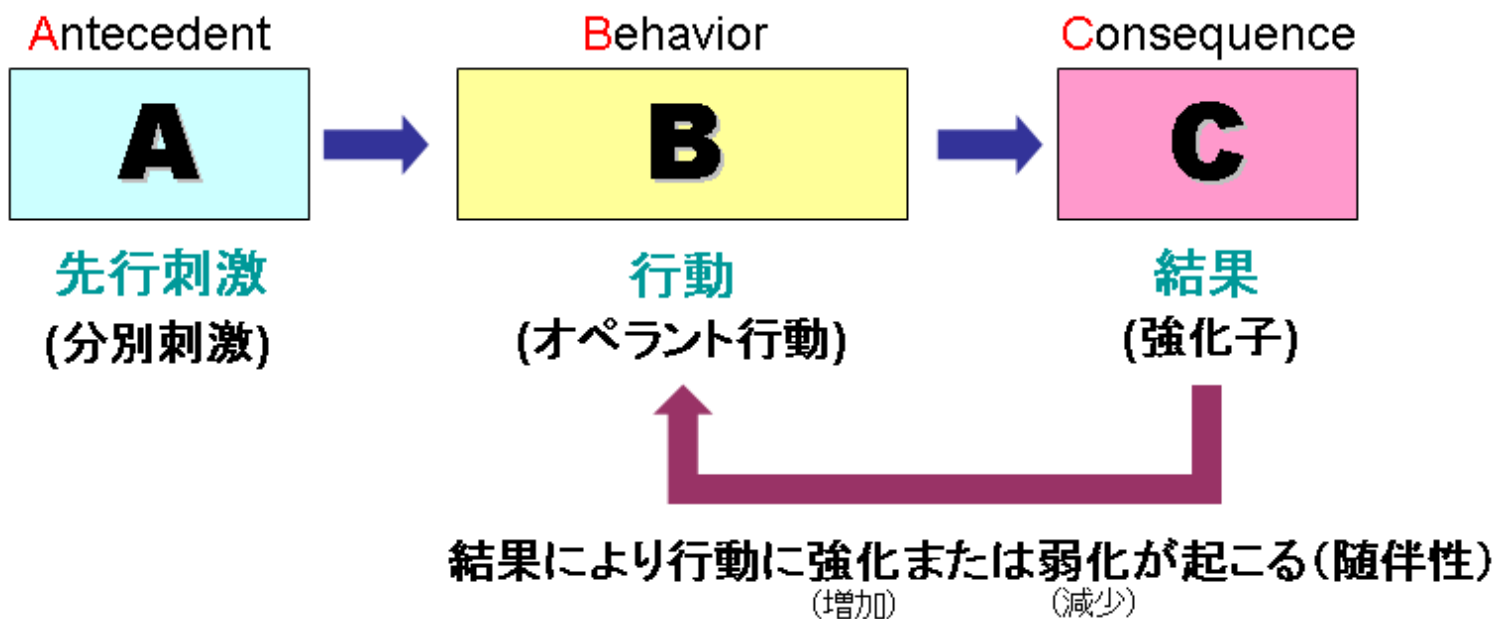
OK！
- ◆ 無意識レベル

⇒ 行動

対応困難！

行動問題がおきるからくり

三項随伴性(ABC分析)



A

B

C

店でほ
しいもの
をみつ
ける

「買って～」
と大声で泣き
叫ぶ

ほしいもの
が手に入る

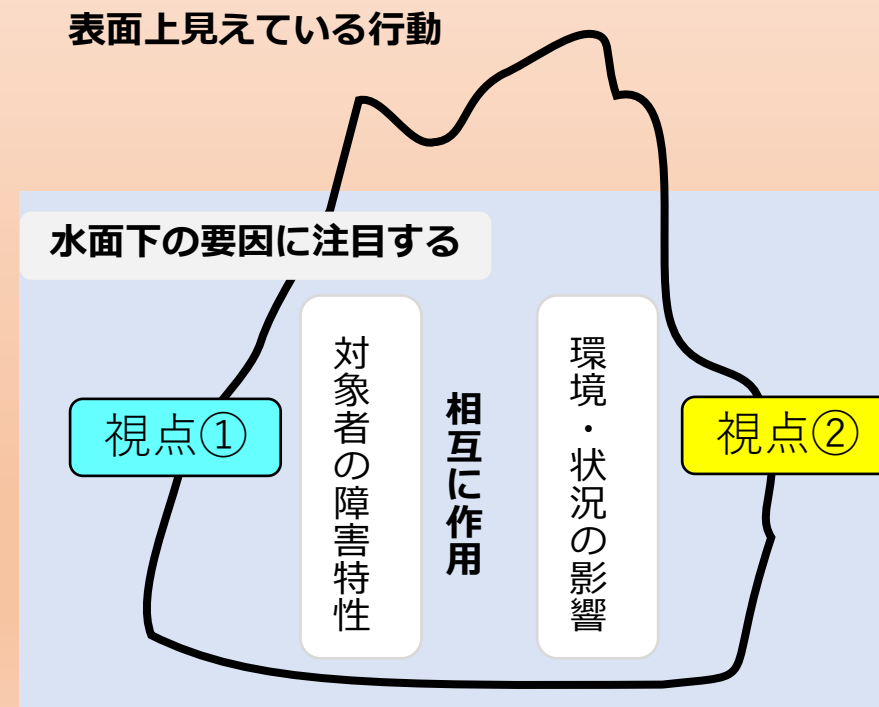
強化

行動問題を理解する2つの視点

背景の障害特性を推測する | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）を推測し、リストアップする。その際、行動の生起要因のきっかけとなっている環境（本人に影響を及ぼす物、事、人）要因にも留意する。

冰山モデルとは、障害がある人の課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考える。



【障がい特性】

【障害種別】

- ・ 身体障害（視覚障がい）
- ・ 身体障害（肢体不自由）
- ・ 身体障害（聴覚障がい）
- ・ 知的障害
- ・ 発達障害
自閉症スペクトラム（アスペルガー障害など）
注意欠如・多動性障害 学習障害など
- ・ 精神障害
- ・ 難病（脊髄小脳変性症） など

【成育歴】

【病歴】

【学力】

【検査結果】

【家庭環境】

【興味関心】

【得意不得意】

【エピソード】

行動問題を理解する2つの視点

視点②

冰山モデルを用いた 支援の考え方 (自閉症の子どもの例)

- ☐ おやつの時間になると、走って部屋の隅にかくれる
(直前の活動までは全く問題なく参加できる)
- ☐ 声かけするが、かたくなに動こうとせず激しく抵抗する
(他害のリスク有り)

水面下の要因に注目する

障害特性：

- ・ 先の見通しをもちにくい
- ・ 苦手な人意識が強い
- ・ 強いこだわりがある

環境要因：

- ・ 今日は何のおやつか知らされていない
- ・ 手洗い場に人が並んでいる
- ・ 食べる部屋がころころ変わっている

【その他】

- ・ おやつの内容
- ・ 容器
- ・ 食べる場所
- ・ 手洗い場
- ・ おやつ後の活動
- ・ 体調
- ・ 空腹度 など

② こんなときどうする？

行動問題が起きた際の対処



人に頼る選択肢を選ばないようにします！

行動問題に対処するサイクル

① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ・ 原因や要因の削除
- ・ クールダウンスペースの確保

【理由・要因が
明白な場合】

② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ・ 謝罪や仲直り、問題である理由の説明など
- ・ 今後の約束を決めさせる（決める）



③ 約束に沿った対応をする

- ・ 決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ）

① 起きた問題行動を分析する

- ・ 【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す

② 行動問題がおこらない環境設定をする

- ・ 事前の約束を徹底する

【理由・要因が
不明確な場合】

① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める (理由・要因が明白)

- | | | |
|---|--------------|---|
| ア | <u>安全の確保</u> | ・ 本人や周囲の子どもがけがなどしないよう
安全を確保する（自傷の軽減 他児の移動など） |
| イ | <u>刺激の除去</u> | ・ いやになっている刺激を取り去る
（視覚 聴覚 触覚 におい など） |
| ウ | <u>刺激の制御</u> | ・ 現状以上の刺激を与えない
（クールダウンスペース クールダウン部屋） |
| エ | <u>受け入れ</u> | ・ まずは気持ちのすべてを受け止める |
| オ | <u>切り替え</u> | ・ 本人が興味ある話題や物を使って
気持ちを切り替える |
| カ | <u>見守る</u> | ・ 症状が治まるまで安全を確保して待つ |

② 落ち着いたらトラブル処理をする

(理由・要因が明白)

- ア 聞き取り
 - ・ 状況や原因等について話を聴く
- イ 不適切行動の確認
 - ・ なにがよくなかったのか？を共通確認する
 - ・ なぜよくなかったのか？を説明、説得する
- ウ 対処方法の確認
 - ・ どうすればよかったのか？を共通確認する
- エ 行動の修正
 - ・ 正しい行動のやり直し（練習を含む）
 - ・ 謝罪や仲直り等の介入
- オ 今後の方針確認
 - ・ 今後のふるまい方の約束をする
 - ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

③ 約束に沿った対応をする

(理由・要因が明白)

才 今後の方針確認

- ・ 今後のふるまい方の約束をする
- ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

- ・ 目標や取り組みの内容と方法を『約束』にする。(=ルール化)

約束時 ① ルール化は、可能な限り『子ども自らが決める方向で』

約束時 ② 決して『押し付けにならないように』

その後 ③ 取り組みの評価は、随時、定期的に！

その後 ④ 取り組みの成果には、必ず評価 (=賞賛・報酬) を！

① 起きた行動問題の分析

(理由・要因が不明)

記録様式の例

【記録を録る】

さとり さんの行動記録

- 他の利用者につかみかかる・・・●
- 危険を感じた・未然に防いだ・・・○
- その他の攻撃等・・・×


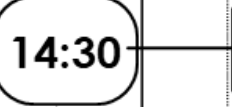
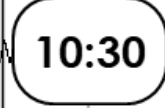

活動	10/13 (月)	10/14 (火)	10/15 (水)	10/16 (木)
来所・準備	●	○	×	
宿題の時間				
休憩の時間	● ● ×		○○	
集団の活動		×		
昼食・昼休み	○		● ○	● ○
散歩				
自立課題		●		
帰り	○ ×			● ○

① 起きた行動問題の分析

(理由・要因が不明)

■チェックする行動・・・『他の利用者につかみかかる』

- ・ 起きた時刻：
- ・ 落ち着くまでにかかった時間：
- ・ 前兆（低い唸り声、体を前後に揺する等）：

日	曜日	9	10	11	12	13	14	15	16
1	月								
2	火								
3	水								

① 起きた行動問題の分析

(理由・要因が不明)

【記録を録る】

__月__日の__さとり__さんの行動記録

起きた場面・状況	起きた行動	行動の後に起きたこと
<ul style="list-style-type: none">9:50頃、活動に向かう途中〇〇さんが大声を出しながら部屋内を行ったり来たりしていた気にするさとりさんにA職員が制止して別の部屋に促した	<ul style="list-style-type: none">〇〇さんを気にして近づこうとした職員に制止されると興奮が高まり壁を蹴った	<ul style="list-style-type: none">A職員の誘導で別の部屋に移動し、作業に取り組むことができた作業をしているうちに興奮は治まった
<ul style="list-style-type: none">13:00過ぎ、散歩前のトイレ入れ違いに〇〇さんがトイレから出てきた	<ul style="list-style-type: none">突然、〇〇さんに頭突きをした	<ul style="list-style-type: none">B職員が制止静養室に誘導され、落ち着くまで一人で過ごした（約30分）

※関連しそうなその他の情報

- ・前日の夜は寝付きが悪く、睡眠時間が4時間程度。
- ・最近、睡眠が乱れているとの母からの情報あり。

① 起きた行動問題の分析

① 変化を把握する

(理由・要因が不明)

【変化を把握するための記録】

1. 問題となっている行動に着目する
例) 頻度、強度、持続時間
2. 記録する時間帯や場面等を決める
例) 1日を通して、時間の区切りごとに、場面ごとに
3. 継続できるように工夫する
例) 既にあるものを活用する、置く場所、期限を設ける

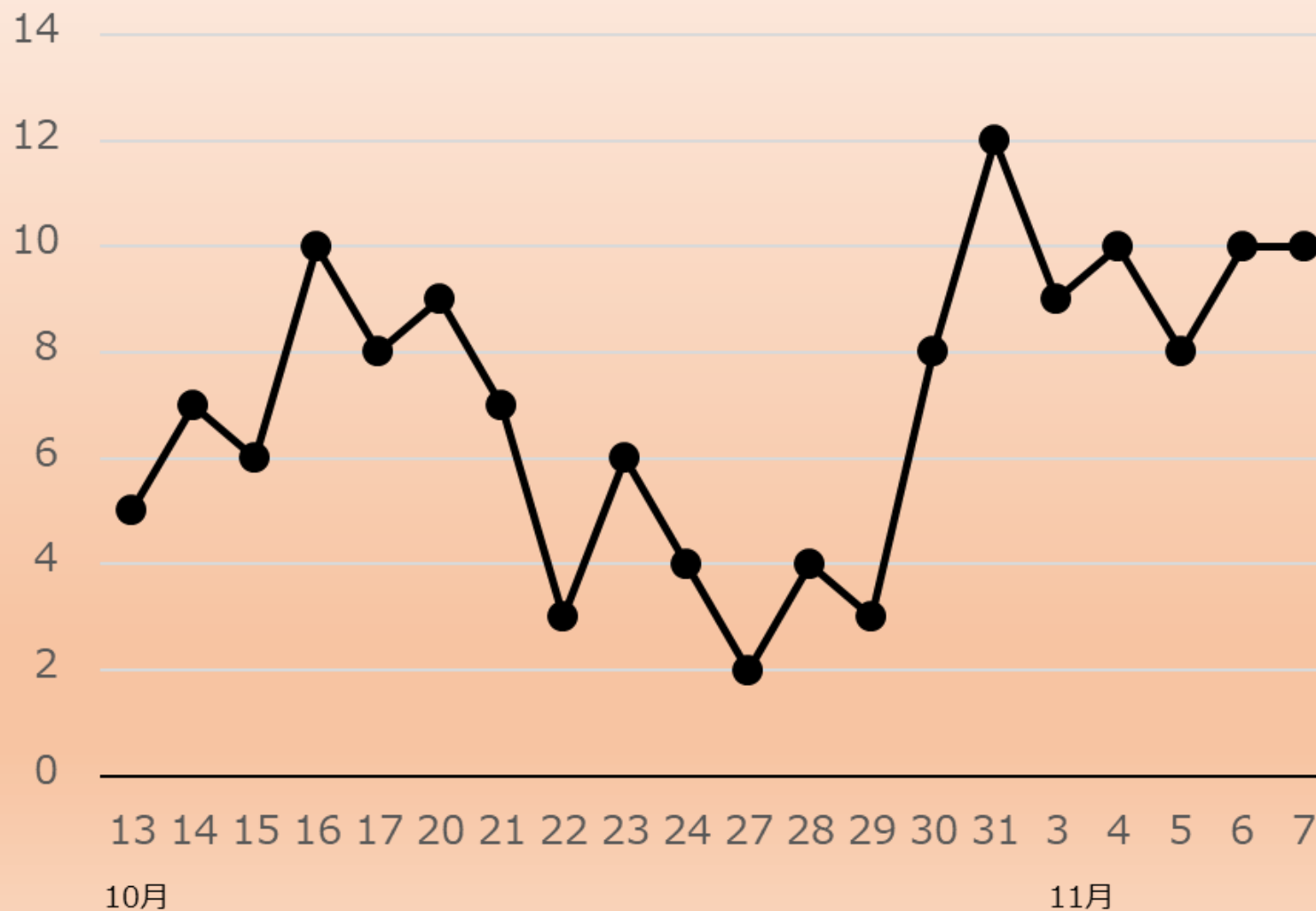
【期間を決めて変化をまとめる】

- ひとめでわかるように整理する
例) 折れ線グラフ、一覧表

① 起きた行動問題の分析

(理由・要因が不明)

■他の利用者をつかみかかった回数



① 起きた行動問題の分析

② 原因を考える

(理由・要因が不明)

【関連しそうな情報を集める】

■障害特性やスキルをもう一度調べる

例) 苦手なこと、得意なこと、できること、できないこと

■生活全体の状況を確認する

例) 家庭・家庭の状況、生活のパターン

■生理・医学的な情報を収集する

例) 睡眠、病気、服薬、周期的な変化

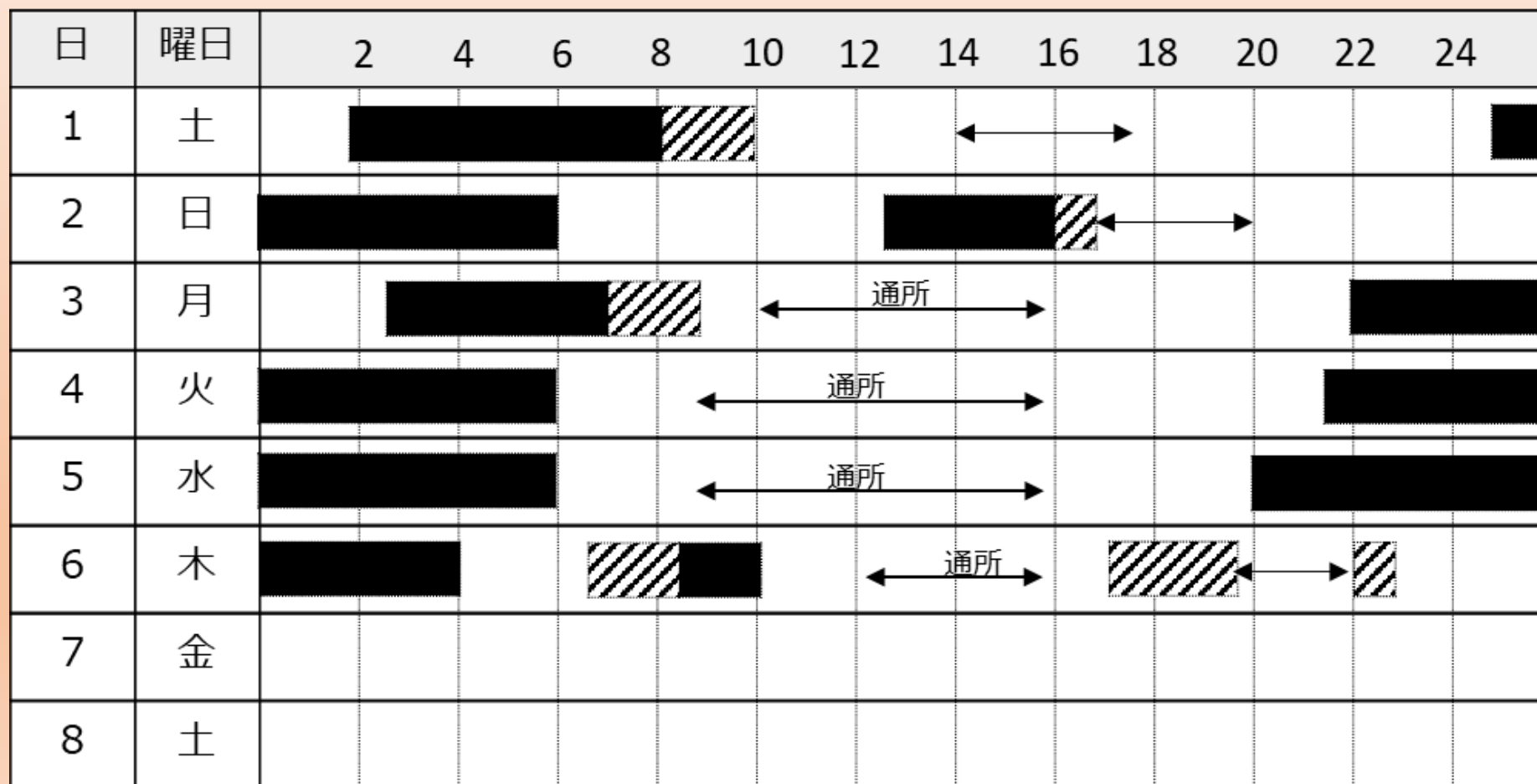
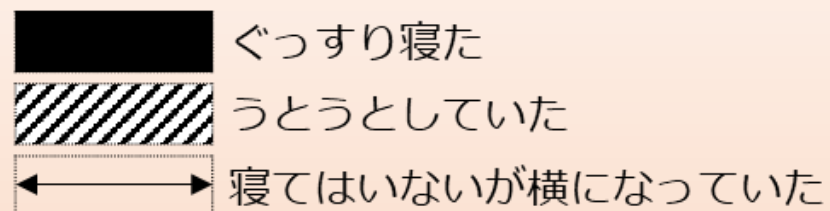
【できているとき・できていないときの環境を詳しく見る】

■問題が生じた前後の状況を整理する

例) 機能的アセスメント (機能分析、ABC分析)

① 起きた行動問題の分析

(理由・要因が不明)



Web記録の入力フォーム例

(理由・要因が不明)

行動問題記録フォーム(例)

スマートフォン・もしくはオンラインパソコンでの問題行動記録フォーム例です。
いつでも、だれでも、どこでも記録できることに、行動問題の即時対応に活用ができると考えます。

1 記入者

- ☐ 田中
- ☐ 松本
- ☐ 高倉
- ☐ 高橋

2 対象児

- ☐ 船津
- ☐ 湊
- ☐ 北古賀
- ☐ 橋原

3 日時

日付
年/月/日

4 場所・場面

- ☐ 迎え時
- ☐ 車内
- ☐ 到着時
- ☐ 活動1の時
- ☐ 活動2の時

行動問題記録フォーム

1 記入者

2 対象児

3 日時

4 場所・場面

5 内容

6 詳細記述

7 具体的対応・改善策

③ こんなときどうする？

行動問題を防ぐ方策（防ぐア 防ぐイ）



防ぐにはベースの力を身につけること

望ましい行動を身に付けさせる

ステップ①

① 行動問題の発生
を回避する支援力

状況と時期の
適切な見立て



ステップ②

② 望ましい行動を
身に付けさせる

望ましい行動を身に付けさせる

A (状況)

店でほしいものをみつける

B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ

C (結果)

ほしいものが
手に入る

【3つのポイント】

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅡ

『C』の結果を与えない

レベルⅢ

『B』の行動を変える

① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

防ぐア

防ぐイ

行動問題を防ぐ ア



直接的に行動問題を起こらなくする

② 行動問題が起こらない環境設定をする

宿題時の飛び出し！

- ① 順調に宿題（ローマ字の読み書き）を開始
- ② 「教えて～！」 Aスタッフが対応
 - ・ローマ字表を持ってくる
 - ・ホワイトボードを持ってくる
 - ・他の児童から呼ばれて、本人から離れる
- ③ 宿題を紙吹雪状にびりびりと破る
- ④ Aスタッフ、Bスタッフが制止する ➡ 施設を飛び出し！

【行動問題を起こした本人の思い・考え】

「（まわりが）うるさい」

「ローマ字が苦手、わからん！」

「写す作業もわからん！ 疲れる・・・」

「サクサク教えてほしい。ペースが合わん！」

「（先に友だちが終わったのを見て）あせった！」

「（Aスタッフが離れて）いつ帰ってくるかわからん！」

② 行動問題が起こらない環境設定をする

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

② 行動問題が起こらない環境設定をする

宿題時の飛び出し！

	もの	ひと	こと
本人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち着いて学習できる環境として仕切りがある机を準備 ・ 小文字が載っているローマ字表を準備 ・ 模写サポート道具の準備（ホワイトボード、模写台など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人及びその場から離れる際の本人への声かけの工夫 ・ 本人を待たせる際の明確な指示の工夫（時間指定など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できる範囲で「自立的」な行動を促す基本的姿勢をスタッフ間で共通確認する。
まわり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3人に1人以上のスタッフ配置 ・ 児童を迎える事前準備の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題が早く終わった子への適切な声かけの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所へ到着後の動線誘導の再確認 ・ 送迎車内での事前声かけの工夫 ・ 当日の支援に関わるミーティングの充実

行動問題を防ぐ イー 1

代わりの行動をつくる

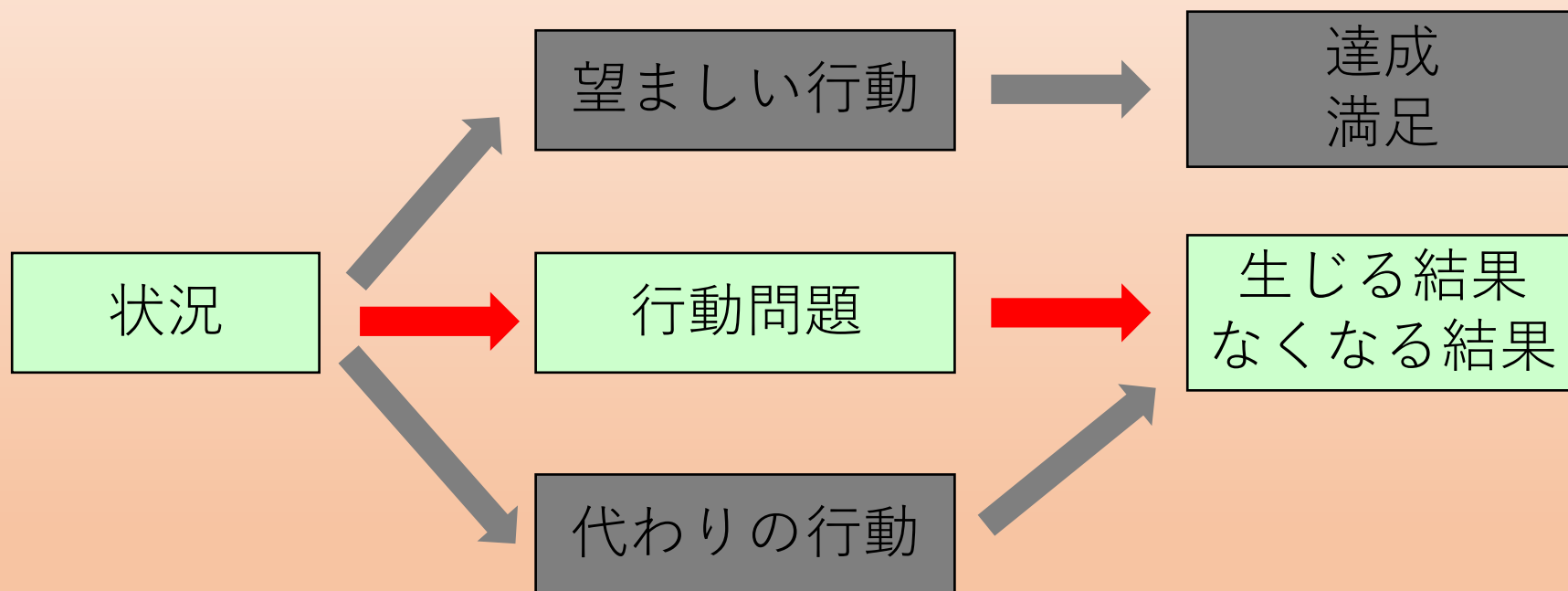


行動問題を起こさなくても済む別の行動を身につける

イー 1 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

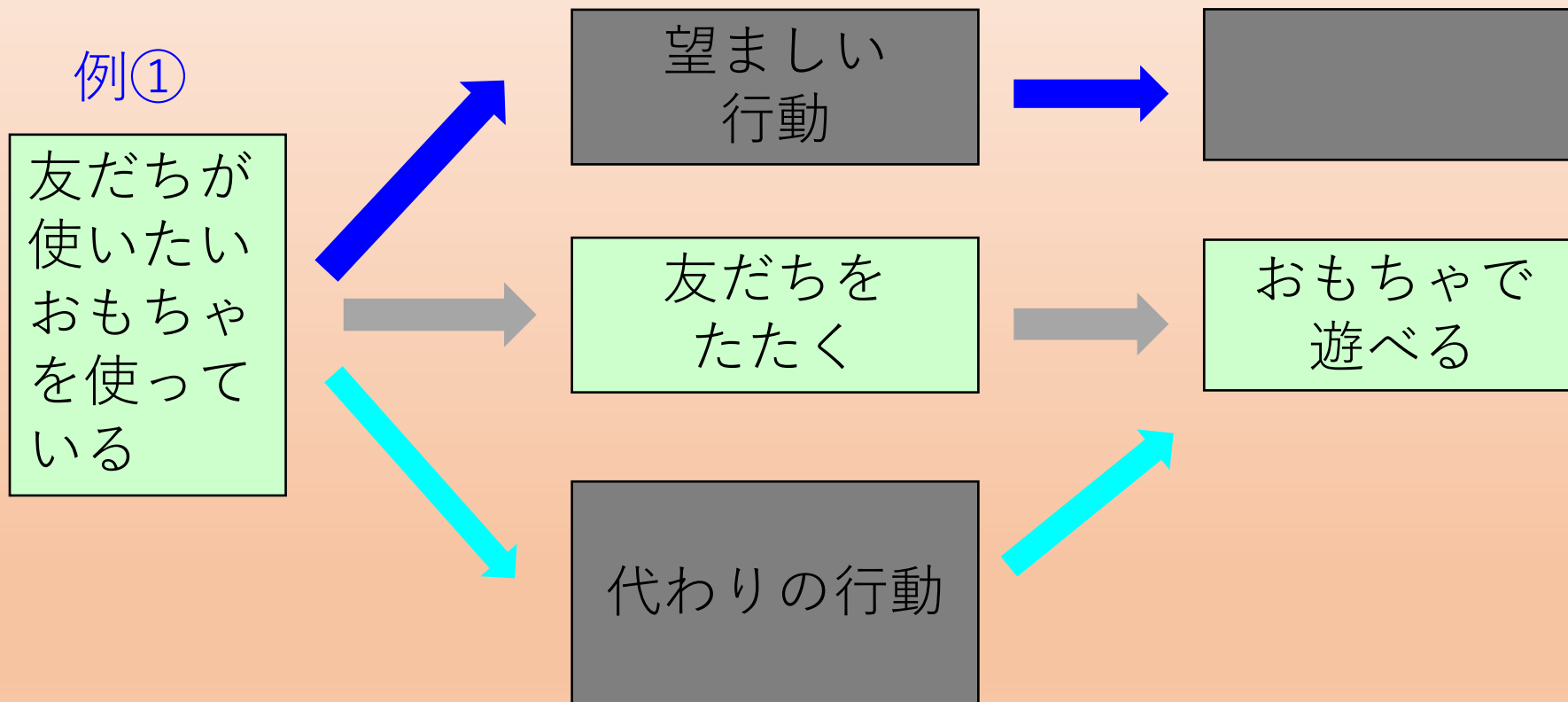
【子どもの力を高める支援を検討する】



イー 1 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



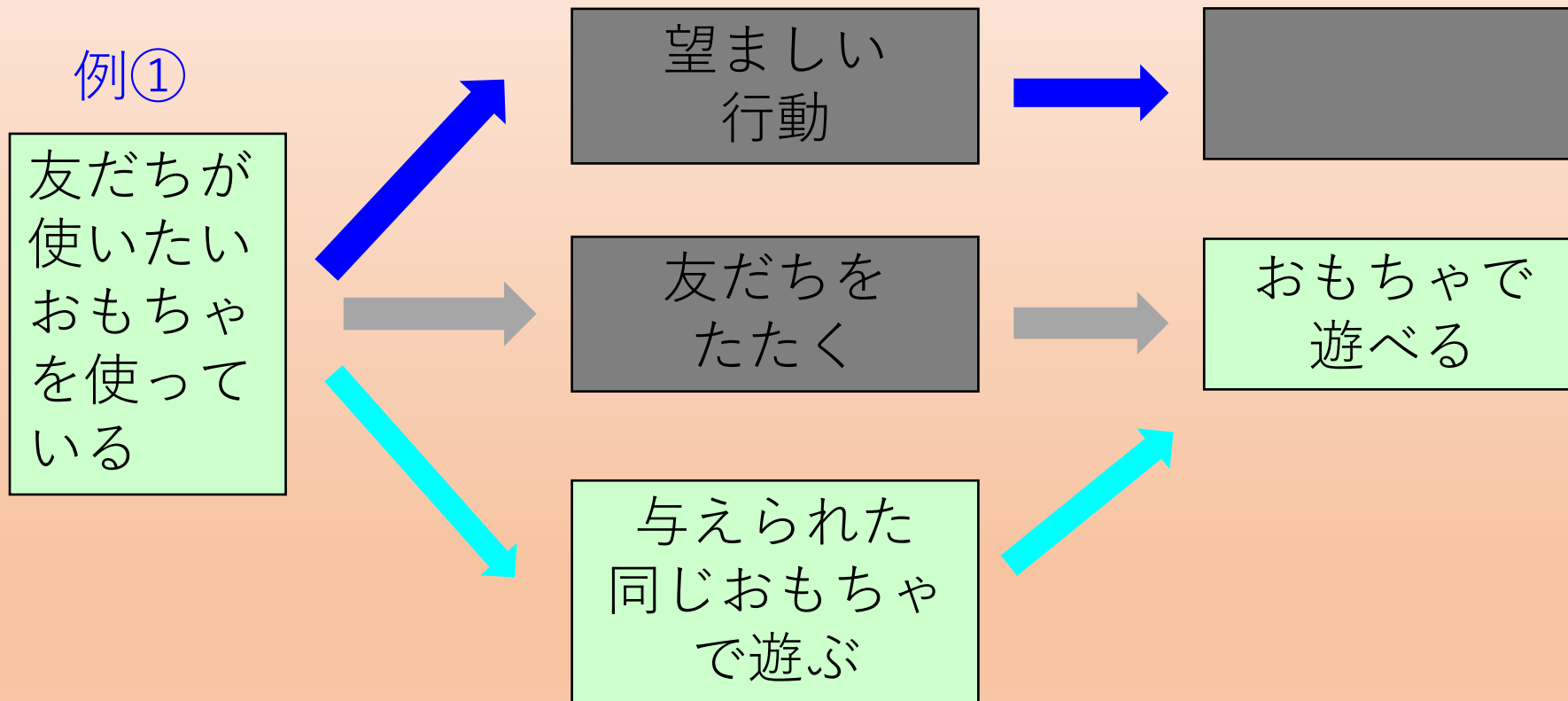
※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力 & 支援力養成ガイド

イー 1 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



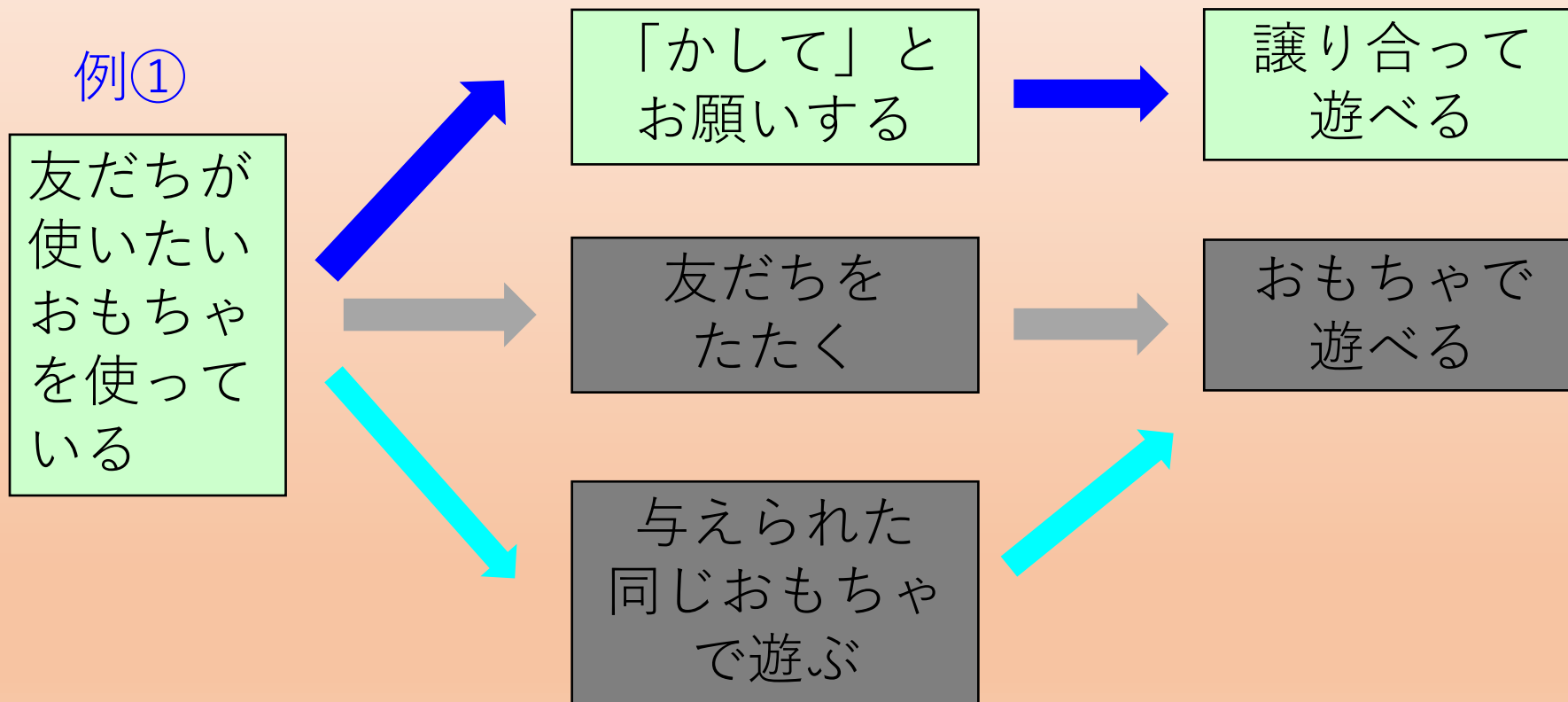
※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力 & 支援力養成ガイド

イー 1 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力 & 支援力養成ガイド

行動問題を防ぐ イー 2

防ぐための5つのサイクル



行動問題を起こさなくても済む基礎力を身につける

望ましい行動を身に付ける5ステップにおけるABA

- ① 不適切行動を『軽減』する・なくす 「分化強化」 「消去」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『獲得』させる 「シェイピング」 「SST」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『維持』させる 「強化スケジュール」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『般化』させる 「習慣化」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『自立』度を高める 「フェイディング」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

望ましい行動を身に付ける5ステップにおけるABA

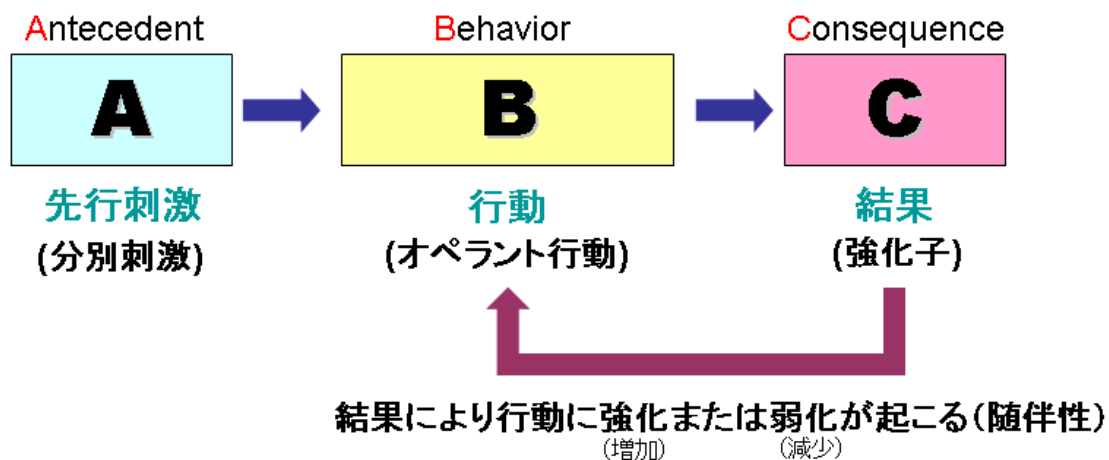
- ① 不適切行動を『軽減』する・なくす 「分化強化」 「消去」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『獲得』させる 「シェイピング」 「SST」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『維持』させる 「強化スケジュール」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『般化』させる 「習慣化」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『自立』度を高める 「フェイディング」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

① 不適切行動を減らす 「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

【不適切行動を減少させる方法】

不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）

三項随伴性(ABC分析)



方法① 嫌悪刺激の呈示

方法② 消去手続き

方法③ 刺激の撤去

方法④ 分化強化手続き

【不適切行動が強化されている状態を断ち切る】

① 不適切行動を減らす

「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

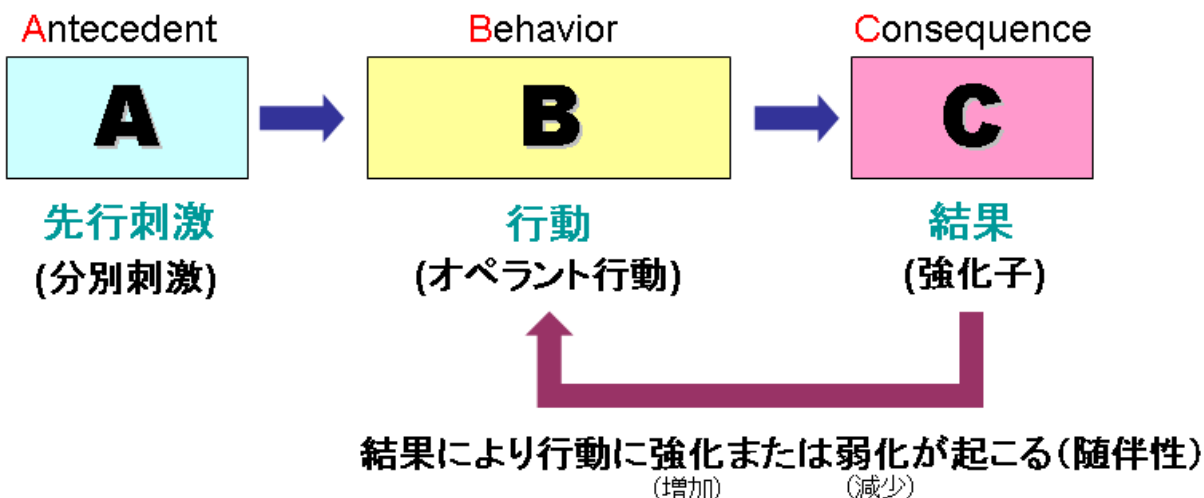
【問題行動を減少させる方法】

方法① 嫌悪刺激の呈示

無条件性嫌悪刺激：肉体的な苦痛や不安感
を与えるもの

条件性嫌悪刺激：経験を通して嫌悪感を
与えるようになったもの

三項随伴性(ABC分析)



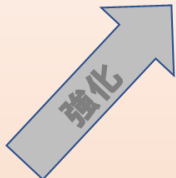

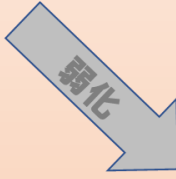

※ 他の方法がうまくいかないときの
最後の手段
直接「虐待」につながりかねない

対人職を専門とする支援者
として使用したくない方法

① 不適切行動を減らす 「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

【問題行動を減少させる方法】

方法② タイムアウト（＝罰）

	出現	消失
好子		
嫌子		

好子・強化子を取り去ることで強化を断ち切る

タイムアウト：強化されている機会を一定期間与えなくすること

- ・ 非隔離タイムアウト その場所で行う
- ・ 排除タイムアウト その活動や環境から切り離す
- ・ 隔離タイムアウト 別室に移動させて行う

- ・ 短く
- ・ 終われば元に

本人、保護者、関係者などの承諾を得ること

① 不適切行動を減らす

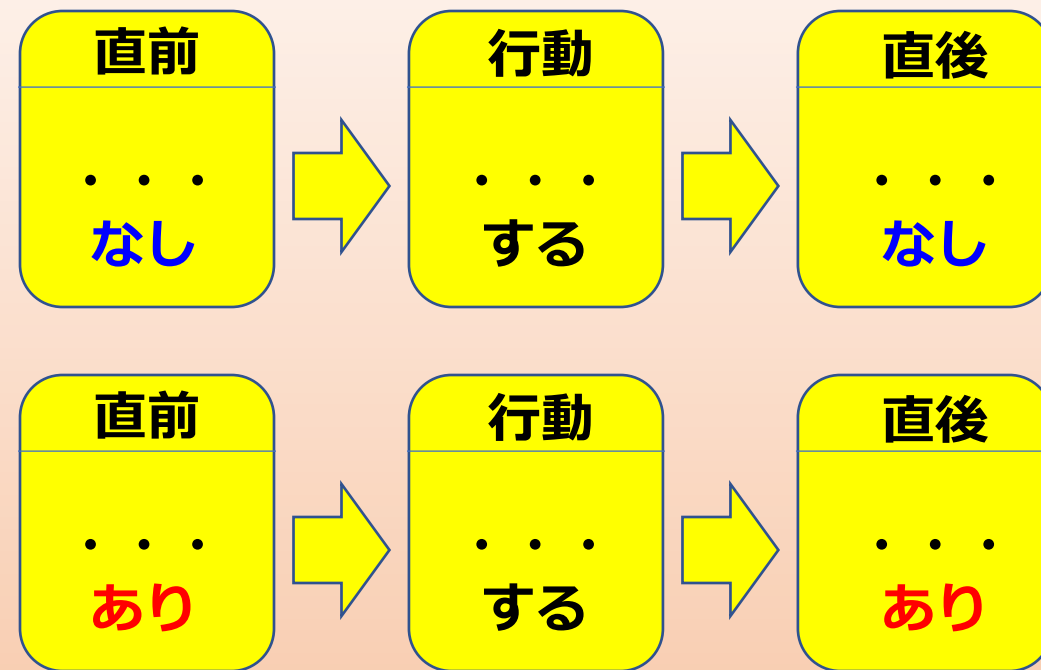
「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

【問題行動を減少させる方法】

方法③ 消去手続き

【消去】

これまで**強化されていた行動**に対して
強化の随伴性を中止すると
強化の随伴性を導入する以前の状態まで
その行動は減少する



※ 「計画的無視」

強化も弱化もしない
= なにもしない

① 不適切行動を減らす

「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

【問題行動を減少させる方法】

方法③ 消去手続き

【消去の留意点】

「消去バースト」

消去手続きを開始した直後は、一時的に
問題行動の頻度や強度が爆発的に増える



エクスポージャー療法

の原理によると

- ・ 不安は一時的に上昇するものの時間とともに減っていく
- ・ 何度も練習していくうちに不安の大きさは全体的に小さくなる

① 不適切行動を減らす 「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

【問題行動を減少させる方法】

方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化 イ 他行動分化強化
ウ 対立行動分化強化 エ 代替行動分化強化

【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

ア 低頻度分化強化 ： 不適切行動の回数や時間が基準以下の場合に強化する

問題行動があらかじめ決めた回数や時間の基準値以下で起こった場合に強化をすることで発生頻度を減少させる。

【例】 帰りの会で、他者が話をしているのに自分勝手にしゃべり始める回数が2回以下だった時、会が終わってからごほうびとしてトークンカードに頑張ったシールを渡す。

① 不適切行動を減らす

「タイムアウト」「消去」「分化強化」

【問題行動を減少させる方法】

方法④ 分化強化手続き

ア 低頻度分化強化 イ 他行動分化強化

ウ 対立行動分化強化 エ 代替行動分化強化

【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

イ 他行動分化強化 : 不適切行動が起きていない場合を強化する

不適切行動が起きていない時間帯やその瞬間があるときに強化をすることで、不適切行動が起きない時間や場面を増やしていくアプローチ。

【例】これから10分間、途中で休まず集中して宿題に取り組むことができた時、宿題全部が終わった後に、好きな職員と好きな遊びを10分間することができる。

① 不適切行動を減らす 「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

【問題行動を減少させる方法】

方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化 イ 他行動分化強化
ウ 対立行動分化強化 エ 代替行動分化強化

【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

ウ 対立行動分化強化：同時に実行できない代わりの行動を強化

不適切行動と同時に成立しない行動をターゲットにし、その行動がみられたときに強化をする。一方、不適切行動が発生しているときは強化しない。

【例】（離席と着席）頻繁に離席がみられる子どもが、着席をして創作活動に取り組んでいる姿をほめて強化し、離席している場合には強化しない（声掛けをしたり注目したりなどの反応をしない）。

① 不適切行動を減らす

「タイムアウト」「消去」「分化強化」

【問題行動を減少させる方法】

方法④ 分化強化手続き

ア 低頻度分化強化 イ 他行動分化強化

ウ 対立行動分化強化 エ 代替行動分化強化

【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

エ 代替行動分化強化：不適切行動に置き換わる代替りの行動を強化

不適切行動に代わる代替行動を強化することで、不適切行動に費やされていた時間の割合よりも代替行動に費やされる時間の割合を高めるというアプローチ。

【例】人の物を無断で借りることがよくある子どもが、「貸して」と頼んで他児から了承を得て物を使うことができた場合のみ強化する。

望ましい行動を身に付ける5ステップにおけるABA

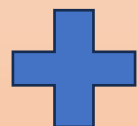
- ① 不適切行動を『軽減』する・なくす 「分化強化」 「消去」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『獲得』させる 「シェイピング」 「SST」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『維持』させる 「強化スケジュール」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『般化』させる 「習慣化」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『自立』度を高める 「フェイディング」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

② 行動の獲得 「シェイピング」・「SST」

【シェイピング】

目標となる行動をスモールステップに分けて、簡単なものから教育・学習していく方法

目標行動に**より似ている行動**だけを次々と分化強化していく手続き



【目標行動】

レパートリーでない行動の1つで
目標行動と関係の深い次元上で
似ている行動

【出発点行動】

レパートリーの1つで
目標行動と関係の深い次元上で
似ている行動

【連続強化スケジュール】

行動するたびに強化する手続き

② 行動の獲得 「シェイピング」・「SST」

【目標となる行動の細分化】

細分化の例：おもちゃを片付ける



- 1.片づけるおもちゃを認識する
- 2.おもちゃを種類ごとに分類する
- 3.おもちゃの片づけ場所を認識する
- 4.各おもちゃの片づけ方を理解する
- 5.1つのおもちゃを箱に直す
- 6.次のおもちゃを箱に直す
- 7.すべて入れ終わったか確認する
- 8.入れた箱を決まった場所に運ぶ
- 9.片づけ終わったことを人に伝える

② 行動の獲得 「シェイピング」・「SST」

トレーニングの流れ

教示

やり方を教える

モデリング

や実際にやって手本を見せる

リハーサル

ロールプレイやゲームなどで実践的に練習する

フィードバック

できていること・できていないことを評価する

般化

日常生活の中で取り組む

① モデリング

他者を観察し模倣するだけで行動を学習する（外的強化がなくても）

【3つの効果】

1 観察学習による行動獲得

- ・ モデルの行動を見て新しい行動を学習する

2 制止・脱制止

- ・ すでに学習していた行動を行わなくなる
- ・ しないようにしていた行動を行うようになる

3 反応促進

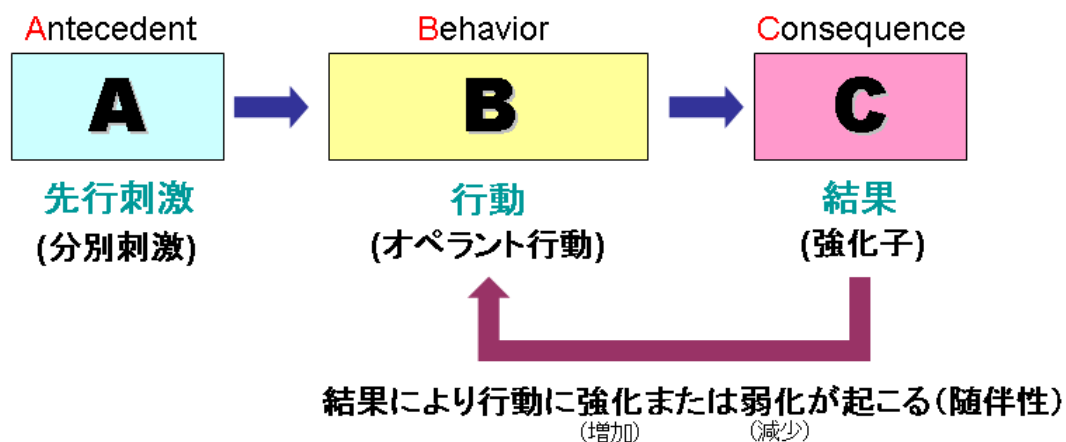
- ・ 学習していた行動がより頻繁に行われるようになる



② 強化

その行動をまた実行する可能性を高めるため、
行動に対して、好ましい結果を与えること（強化子・好子）

三項随伴性(ABC分析)



	出現	消失
好子	強化	弱化
嫌子	弱化	強化

② 強化

【好子・強化子の種類】

- ・ 生得性好子（無条件）・・・生命維持に関する基本的欲求を充足
食べ物、飲み物、におい、味、睡眠、性的刺激 等
- ・ 習得性好子（条件性）・・・ごほうびであることを後の学習で身に付けた
タブレットでゲーム、お出かけ、買物、言語的賞賛 等
- ・ 般性好子・・・この強化子が別の強化子を得るために使用される
お金、ごほうびシール等
- ・ 社会的好子・・・人とのかわわりが強化子として機能した場合

③ 行動形成 シェーピング

- ・ 望まれる目標に向けて連続的にステップを踏んで強化を行うこと
- ・ 目標行動により似ている行動を次々と強化していく手続き



A : ひとつのスキルは、どのようなスキルから成り立っているのか？

B : ひとつのスキルは、どのようなスキルが身についてできるようになるのか？

③ 行動形成 シェーピング

スキルの成り立ち例

①あいさつ

「だれにでも」「自分から」「顔を見て」「笑顔で」「聞こえる声で」あいさつをするなど、人間関係をつくるための基本となるスキル。

②自己紹介

「自分のことを話す」「相手の顔を見て話す」「聞こえる声で話す」など、自分のことを相手に伝えるスキル。

③上手な聴き方

「話している人を見て聞く」「あいづちをうつ」「最後まで聞く」など、相手の話に意識を向け、受け止めるスキル。

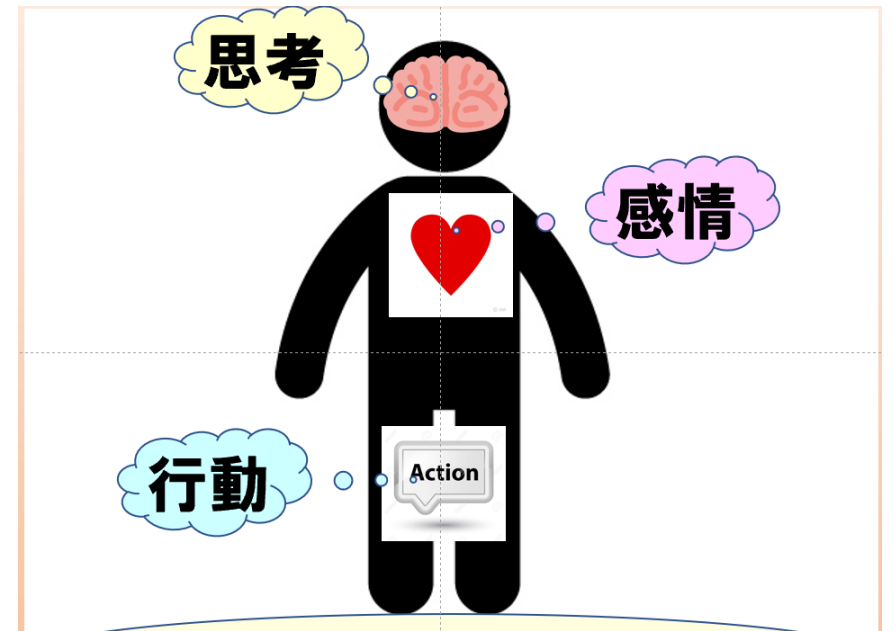
④ 過剰学習（反復学習）

あるスキルを自動的にできるまで繰り返して練習すること
(繰り返し練習する・意識してやることを繰り返えそう)

ロールプレイの繰り返し **(体験する)**
(実際の場面や状況を想定して、
役割を演じることで実践的なスキルを
学ぶ手法)

手順

- ・ 個人ごとの役割を決める
- ・ 目的や場面を設定する
- ・ フィードバックをする



⑤ 般化

ある場面で獲得されたスキルをそれ以外の場面でも使えるようになること
(実際の場面でできる・応用する)

習慣とは

十分に学習した行動や自動化された行動系列のうち、比較的に特定の状況で生じ、時間がたつことで運動性の反射となり、動機付けや認知の影響を受けなくなり、意識的な意図をほとんど、あるいはまったく伴わずに実行されるもの。

習慣化の特徴

- ・ その行動をするのが当たり前に感じる。
その行動をしない方が気持ち悪いと、違和感を覚えることもある。
- ・ 意志の力が必要ない。無意識のうちにやっていることもある。
- ・ がんばらずにずっと継続できる。
むしろやめようと思っても、やめられない。

⑤ 般化

1. 続けること自体を目標にする（最重要）
2. 具体的かつ客観的な目標にする
3. 今すぐにはじめる
4. 極限までハードルを下げて簡単な目標にする
5. イレギュラーに対応するルールを作る
6. やるタイミングを具体的に決める
7. 別の習慣にくっつける
8. 毎日やる
9. 個人目標を持って楽しむ
10. 周囲に宣言する
11. だれかと一緒にやる
12. 習慣化できたら目標を再設定する
13. 自分につらい思いをさせない
14. 失敗するのが難しいほど小さく始める
15. 意志の力ではなく脳内物質の力を使う
16. 貼り出しでワーキングメモリをサポートする
17. 数字を記録する
18. 快感を見つけ大げさに感じる
19. 他人の力を借りる

望ましい行動を身に付ける 5 ステップにおけるABA

- ① 不適切行動を『軽減』する・なくす 「分化強化」 「消去」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『獲得』させる 「シェイピング」 「SST」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『維持』させる 「強化スケジュール」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『般化』させる 「習慣化」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『自立』度を高める 「フェイディング」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

③ 行動の維持 「強化スケジュール」

【連続強化スケジュール】

行動するたびに
好子が出現したり
嫌子が消失すること

定比率

決められた回数の行動をした直後に好子が出現する

変比率

何回か行動すると（回数是一定ではない）好子が出現する

【部分強化スケジュール】

何回かに1回だけ
行動に随伴して
好子が出現したり
嫌子が消失すること

定時隔

前回の好子の出現から一定時間経過後の最初の行動の直後に好子が出現する

変時隔

前回の好子の出現からある時間（時間是一定ではない）経過後の最初の行動の直後に好子が出現する

望ましい行動を身に付ける5ステップにおけるABA

- ① 不適切行動を『軽減』する・なくす 「分化強化」 「消去」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『獲得』させる 「シェイピング」 「SST」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『維持』させる 「強化スケジュール」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『般化』させる 「習慣化」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『自立』度を高める 「フェイディング」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

④ 行動の汎化（般化）

「習慣化」

習慣とは

十分に学習した行動や自動化された行動系列のうち、比較的特定の状況で生じ、時間がたつことで運動性の反射となり、動機付けや認知の影響を受けなくなり、意識的な意図をほとんど、あるいはまったく伴わずに実行されるもの。

習慣化の特徴

- ・ その行動をするのが当たり前に感じる。
その行動をしない方が気持ち悪いと、違和感を覚えることもある。
- ・ 意志の力が必要ない。無意識のうちに行っていることもある。
- ・ がんばらずにずっと継続できる。
むしろやめようと思っても、やめられない。

④ 行動の汎化（般化）

「習慣化」

1. 続けること自体を目標にする（最重要）
2. 具体的かつ客観的な目標にする
3. 今すぐにはじめる
4. 極限までハードルを下げて簡単な目標にする
5. イレギュラーに対応するルールを作る
6. やるタイミングを具体的に決める
7. 別の習慣にくっつける
8. 毎日やる
9. 個人目標を持って楽しむ
10. 周囲に宣言する

④ 行動の汎化（般化）

「習慣化」

11. だれかと一緒にやる

12. 習慣化できたら目標を再設定する

13. 自分につらい思いをさせない

14. 失敗するのが難しいほど小さく始める

15. 意志の力ではなく脳内物質の力を使う

16. 貼り出しでワーキングメモリをサポートする

17. 数字を記録する

18. 快感を見つけ大げさに感じる

19. 他人の力を借りる



望ましい行動を身に付ける 5段階戦略

- ① 不適切行動を『軽減』する・なくす 「分化強化」 「消去」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『獲得』させる 「シェイピング」 「SST」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『維持』させる 「強化スケジュール」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『般化』させる 「習慣化」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『自立』度を高める 「フェイディング」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

⑤ 行動の自立 「フェイディング」

プロンプトフェイディングの例

身体プロンプトを使用して行動を教える

モデリングを使用して行動を教える

声掛けを使用して行動を教える

プロンプトなしで行動ができる

手助けレベルを減らす

ことばかけの フェイディング

・「部屋に入ったらくつをくつばこに入れるよ」



・「部屋に入ったら最初にすることはなにかな？」

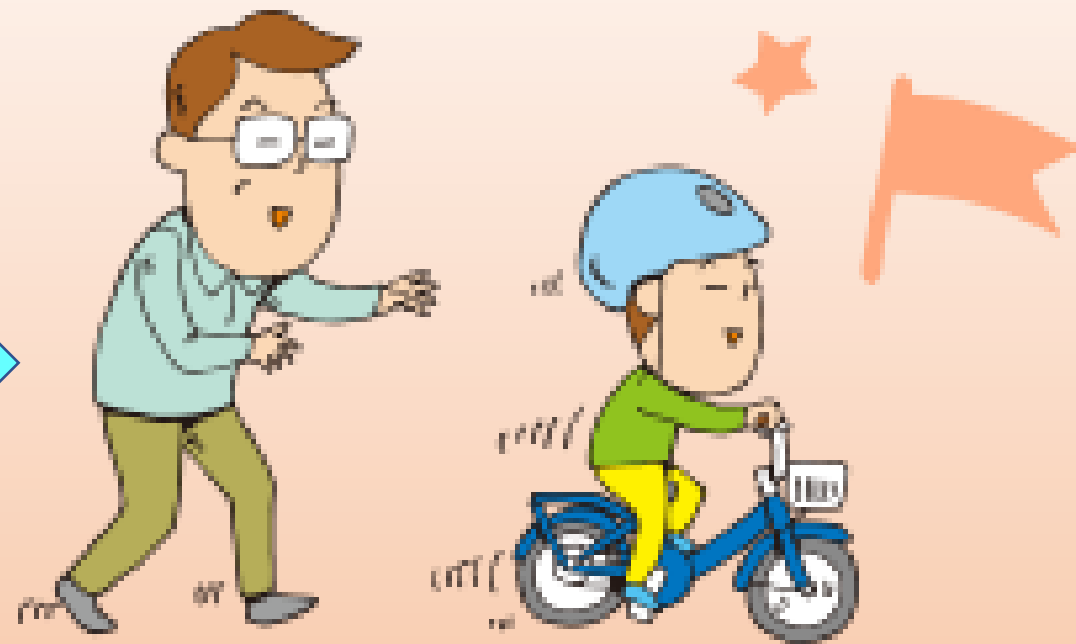
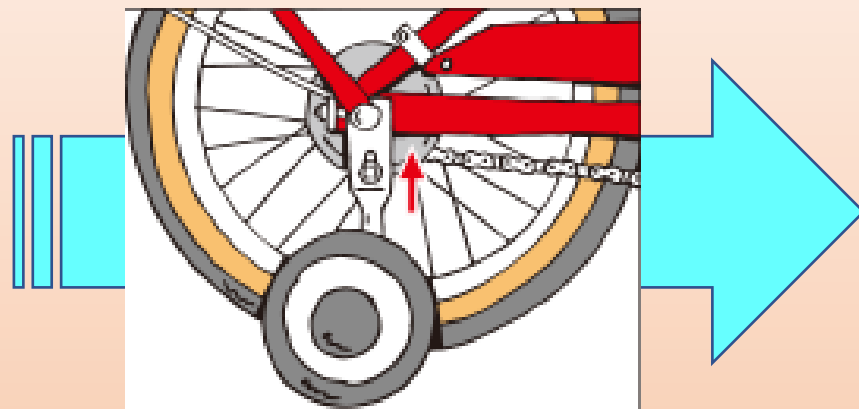
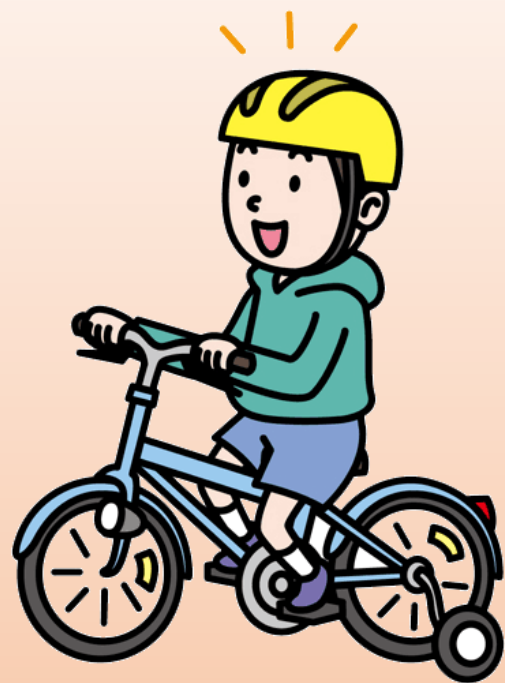


・「約束を思い出してごらん」



・（声かけせずに待つ）

⑤ 行動の自立 「フェイディング」



支援 = 補助輪
つけ



補助輪
はずし



ひとりで行える

支援の量

本人と関係性をつくる



具体的なノウハウよりこちらが大切①

望ましい行動を身に付けさせる

ひとりの「ひと」として『いとおしむ』

信頼関係づくり

わたしたち支援者の『しごと』 = ほめどころを「みつける」こと
「とりだす」こと

支援者のこころ



具体的なノウハウよりこちらが大切②



現場で役立つ自閉症療育

強度行動障害①

多動・自傷・破衣

叱るのは無意味

5:56

現場で役立つ自閉症療育

強度行動障害②

どうする？

激しい暴力

5:28

現場で役立つ自閉症療育

施錠は
いらな

前篇

17:52

現場で役立つ自閉症療育

強度行動障害③

無為な生活から

規則正しい生活へ

6:02

現場で役立つ自閉症療育

強度行動障害④

厳しい訓練は
百害あって一利なし

7:55

現場で役立つ自閉症療育

施錠は
支援の未熟さ
によるもの 後篇

15:08

現場で役立つ自閉症療育

強度行動障害⑤

1か月ほどで

落ち着いたケース

6:44

現場で役立つ自閉症療育

強度行動障害⑥

相手が安心
できる存在になる

7:15